

# 平安京左京三条二坊十町（堀河院跡）現地説明会資料

2007年10月6日（土）  
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市中京区二条油小路町・押堀町・押小路町

調査面積：2,600㎡

調査期間：平成18年12月8日～現在調査中

## 1 はじめに

この調査は、京都市立音楽高等学校移設に伴うもので、これまでに江戸時代、桃山時代、中世（鎌倉～室町時代）の調査を終え、現在平安時代の遺構を調査しています。

平安時代の当地は堀河院の一面にあたります。堀河院は平安時代を代表する邸宅の一つで、太政大臣藤原基経によって開かれました。北は二条通、東は油小路、西は堀川小路（現堀川通）南は三条坊門小路（現御池通）に囲まれた南北二町（約30,240㎡）におよぶ広大な敷地をもっていたとされています。平安時代中期には円融天皇がこの堀河院を里内裏（臨時の御所）とされましたが、その後平安時代後期には白河、堀河天皇も同様に里内裏として用いられています。特に堀河天皇は堀河院を好んで用い「堀河」の諡はこれにちなんだものです。平安時代中期頃の堀河院の状況はよくわかりませんが、後期には西（堀川小路）に面して門が開き、寝殿造の建物群を中心に、南側には広大な池をもつ庭園が広がり、さらにその南側には南山（築山）があったことが文献資料に記されています。堀河院は造営後、何度か火災に遭い、その都度修復されますが、安元三年の大火（1177）で焼亡した後は、衰退したとされています。

## 2 遺構

当調査地は、堀河院の南半部にあたります。調査では調査地の北西部と南部に池を発見しました。北西部の池（池1570）は三日月形の池で、深いところには泥が堆積しています。汀には州浜はなく、景石も配置されていません。南岸は傾斜が急で斜面には粘土が貼られています。また、池の下部には掘り込んだ痕跡があり、池を造る前に大まかな掘り込みを行い、その後、汀を整えていったことがわかります。

調査区の南側では池1600を発見しました。見つかったのは北岸で、汀が東西に直線的に伸びています。この池は北側を広範囲に整地した上に造られており、古い池を埋めた後に造り替えている可能性があります。この他、調査区の東側では、白砂を敷き詰めた箇所や、景石と思われる直径1mほどの石（チャート）も見つかっています。さらに調査区の南西部では20cmほどの平らな石を敷き詰めた遺構も見つかっていますが正体はわかりません。

## 3 遺物

池1570からは平安時代後期の土器がたくさん見つかりました。土師器が最も多く、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁（中国製）など多彩なものがあります。また、陶製の風字硯、石帯、壁土などもあります。中でも壁土は熱を受けて赤変しており、火災を受けたことを示しています。

## 4 まとめ

今回の調査で見つかった池や景石は平安時代後期のもので、ちょうど白河・堀河天皇が里内裏とした時期と一致しています。これらはその位置から、堀河院の南側に広がる庭に伴う、池や景石と思われます。

堀河院の調査は過去何例かありますが、建物などの配置はまだわかりません。しかしながら、敷地の各所に池が掘り巡らされ、要所には景石や白砂を敷き詰めて化粧している壮麗な実態がわかりかけてきました。

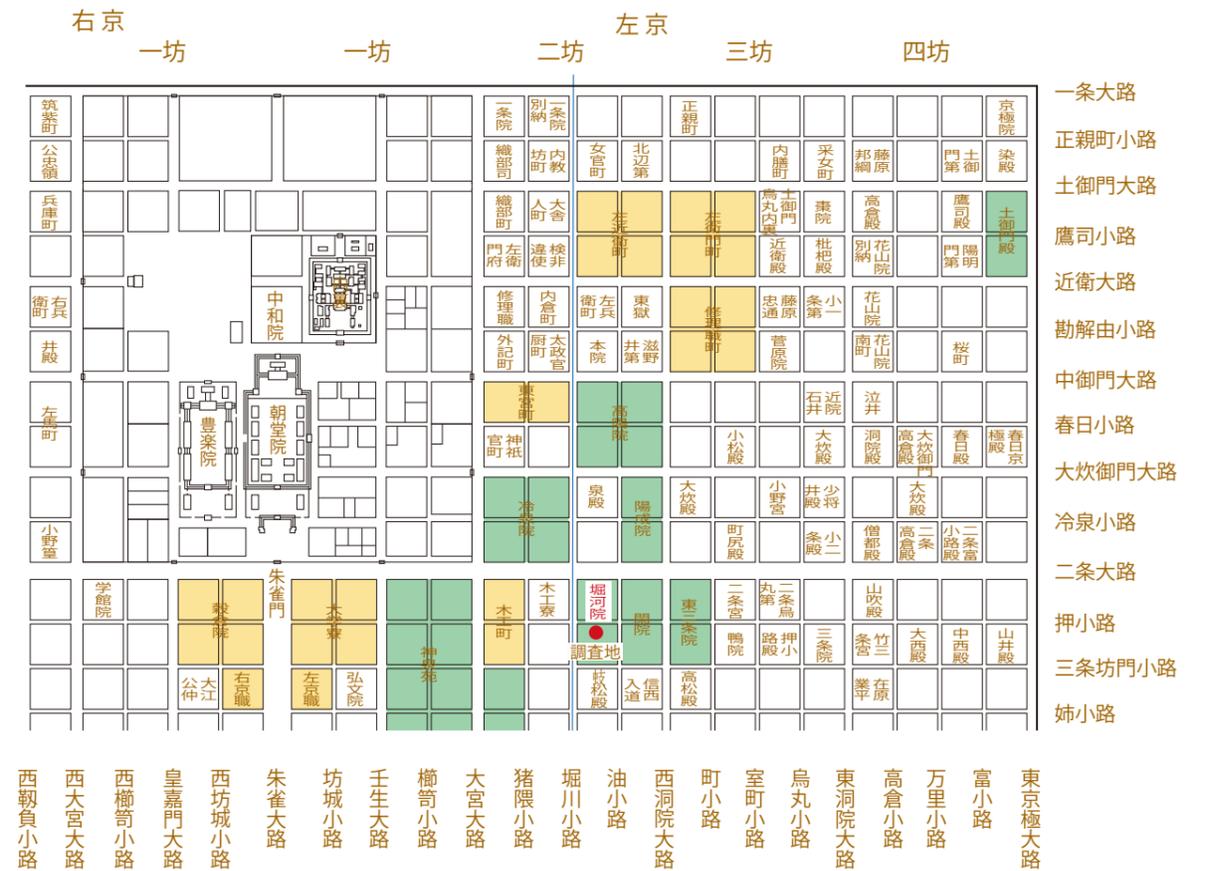


図1 調査位置図



写真1 池1570 南岸

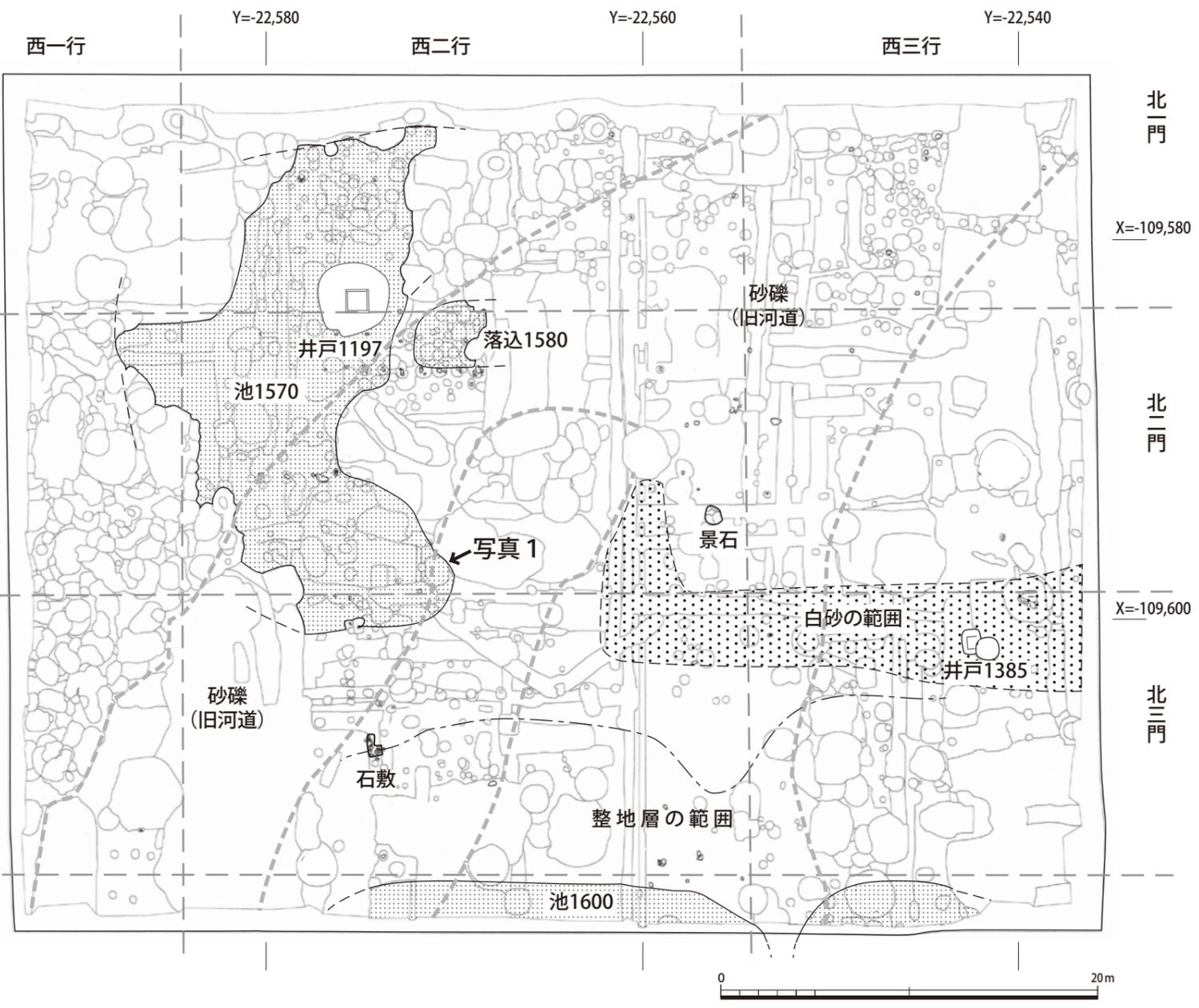


図2 主要遺構配置図(1:300)

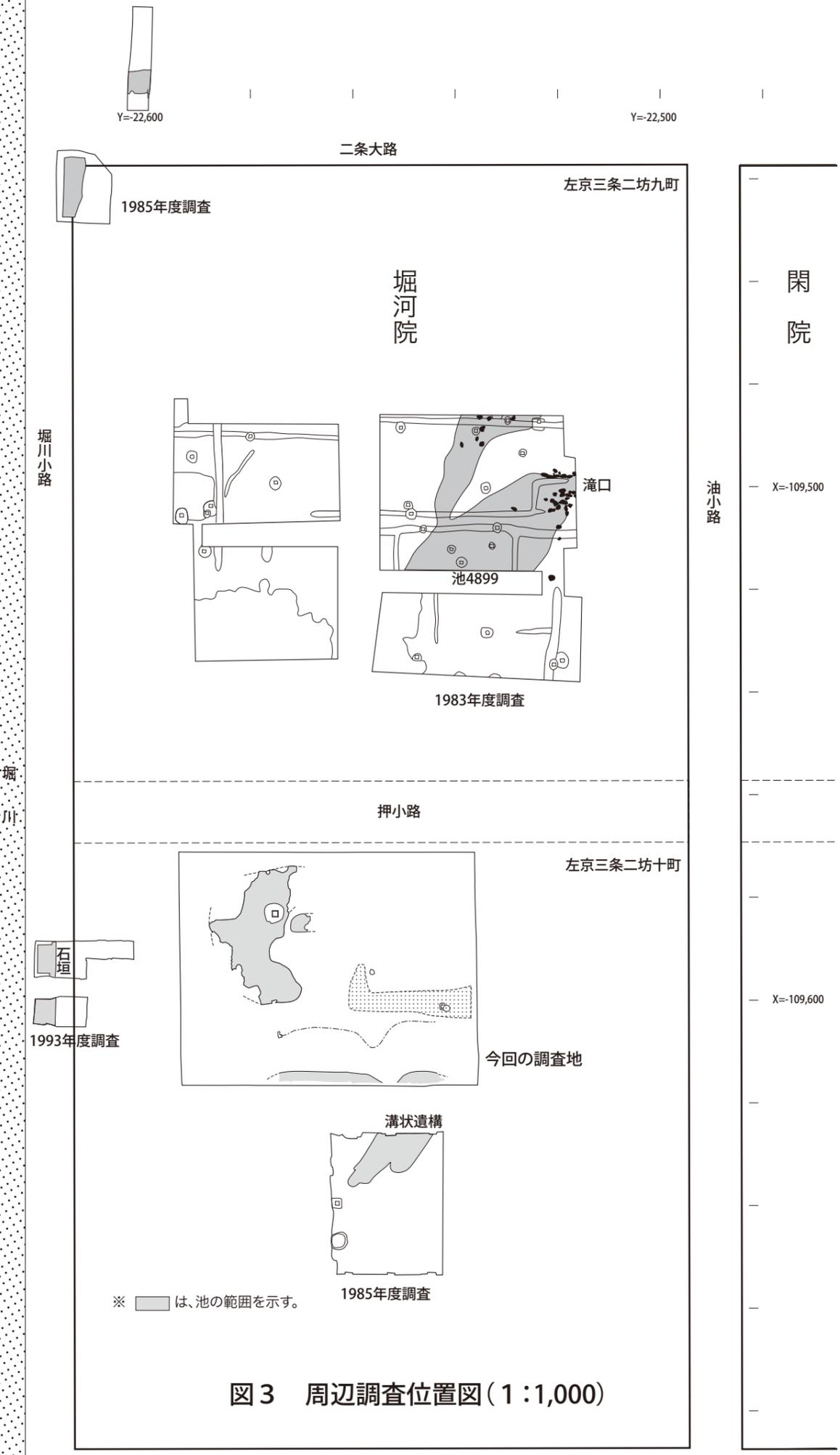


図3 周辺調査位置図(1:1,000)